

事業名	市民考古サポーター養成講座
事業の特徴	市民対象の文化財保護リーダー養成と考古サポーターとしての登録（市民対象の文化財保護リーダー養成やボランティア養成のための講座開設、市民考古サポーターとしての登録及びその支援）

実施機関名	奈良市教育委員会奈良市埋蔵文化財調査センター
連絡先	〒630-8135 奈良県奈良市大安寺西2-281 TEL 0742-33-1821 FAX 0742-33-1822 URL http://www.city.nara.nara.jp/icity/browser?ActionCode=genlist&GenreID=1148016308187&ParentGenre=1000000000365
事業規模	市区町村
事業主体	教育委員会
事業のテーマ分野	文化振興（文化財保護）

1 事業の概要

奈良市埋蔵文化財調査センターの職員が講師を務める講座・実習のプログラムにより、将来の活動に必要な知識、技術を身につけてもらう。受講生の定員は25名とし、考古学の方法や埋蔵文化財についての基礎を体系的に学ぶ「考古学講座」と、発掘調査現場の見学や出土品整理作業の体験などを行う「考古学実習」の2つのプログラムに分かれ、月に1～2回、全13回の講座を実施（Stage 1）。講座修了後、希望者は「市民考古サポーター」として登録をし、奈良市埋蔵文化財調査センターの活動を支援しながら、自分の興味ある分野について学び・活動してもらう（Stage 2）。



考古学講座



考古学実習

2 事業の趣旨、目的

近年、発掘調査の成果を公開する現地説明会や展示会、講演会など、歴史や文化財に関連した行事の参加者の学習意欲は非常に高い傾向にある。そのため、現地説明会や展示会などの結果だけを示す形での公開には飽き足らず、発掘調査などに参加したい、この結果になった過程を知りたいなどの知識や情報に対する要求を持つ人々は多くなってきている。そこで、そのような人々に、調査や仕事の過程を公開し、更に事業へ参画してもらうことにより、文化財の価値の本質についての理解を深めて、文化財の保護を普及推進するリーダーになってもらいたいというのが、事業の主な目的である。

1年目は、サポーターとして必要な知識を身につけるための講座・実習による学習の場を提供、2年目以降は学習の成果を活用して、埋蔵文化財調査センターの事業を支援するボランティア活動を行ってもらいながら、興味ある分野について楽しく学べる場を提供する。それにより、市民の事業への参画とやりがい、生きがいを創出できると考えている。

また、文化財を専門家のものから市民のものへと門戸を開き、文化財保護事業への参画と協働の中で、「学び」「守り」「伝える」をテーマとして文化財保護に寄与してもらい、専門家や行政内部では気づかない新しい発想・意見を事業に反映させるとともに、アマチュアでしかできない、市民考古学研究を推進していきたいと考えている。

3 事業の内容

(1) 学習の内容

講師はすべて、埋蔵文化財調査センターの職員が務め、全13回の講座を実施する。

毎月1回～2回、第2水曜日を基準にスケジュールを組む。1回の講座の時間は90分～180分の予定で行い、午後4時半を目途に終了としている。考古学の方法や埋蔵文化財についての基礎を体系的に学ぶ「考古学講座」が7回、発掘現場の見学や出土品整理作業の体験、地域の歴史を学ぶ遺跡見学などを行う「考古学実習」が6回の構成となっている。考古学講座・考古学実習ともに、本物の遺物に触れ、実際に調査中の発掘現場での実習が大きな特色である。

平成21年度 市民考古サポーター養成講座 Stage1 スケジュール表

	日 時	講 座 名
第1回	7/ 8 (水) 午後1時半～	開講式・オリエンテーション 考古学とはなにか
第2回	7/22 (水) 午後1時半～	石器のはなし 縄文人の暮らし
第3回	8/12 (水) 午後1時半～	弥生の社会 古墳のはなし
第4回	9/ 2 (水) 午後1時半～	佐紀古墳群を訪ねる (実習)
第5回	9/ 9 (水) 午後1時半～	奈良の都平城京
第6回	10/14 (水) 午後1時半～	奈良時代の土器 古代の瓦

	日 時	講 座 名
第7回	10/21 (水) 午前10時～	平城宮跡をみる (実習)
第8回	11/11 (水) 午後1時半～	発掘作業の流れ
第9回	12/ 1 (火) 午後1時半～	舞台裏をみる (出土品整理作業)
第10回	12/ 8 (火) 午後1時半～	舞台裏をみる (出土品整理作業)
第11回	22年1/12 (火) 午後1時半～	発掘現場をみる (実習)
第12回	1/19 (火) 午後1時半～	拓本のとり方 (実習)
第13回	2/10 (水) 午後1時半～	奈良町と中近世の土器・陶磁
第14回	3/ 3 (水) 午後1時半～	土器類の分類整理 (実習) 閉講式

(2) 学習成果を活用したボランティア活動等の内容及び推進の方法

1年目のStage1の受講修了者の中から、希望者に「市民考古サポーター」として登録をしてもらう。活動の単位を午前・午後・1日とし、自分のペースで無理のない範囲で毎月の予定を本人が考えて、一ヶ月ごとに活動予定表の提出を依頼している。その予定表を事務局（埋蔵文化財調査センター）が取りまとめ、毎日のサポーターの活動人数に合わせて埋蔵文化財調査センターの業務支援に入ってもらっている。仕事の内容や行事によっては、サポーターを募集することもある。ただし、活動予定日は義務や仕事ではない。

現在のサポーター活動の内容は、出土遺物の整理補助（洗浄作業など）、公開活用事業（展示会、職場体験など）の補助、発掘調査の補助などを行っている。



講座会場の設営補助



展示設営の補助



出土遺物の洗浄



発掘調査現場での補助

(3) 推進体制等の仕組み

市民考古サポーター登録者に、連絡会・自主活動組織である「寧楽考古倶楽部」を立ち上げてもらい、会員間の連絡、親睦、学習を図ってもらうようにしている。

また、2期生の講座実習などでは、現在の登録者である1期生に指導してもらっている。

4 成果と今後の取組

平成20年度から始めた事業であり、現在は2期生25名がStage 1を受講中である。1期生を募集した際には、定員25名に対し、150名近くの応募があり、ボランティア活動や文化財に対する関心の高さを再認識した。

現在のサポーター登録者数は受講者25名のうち18名であり、サポーターとしての定着率は高い。サポーター制度を取り入れて1年目の成果としては、中高生の職場体験実習や親子考古学教室など公開活用事業の際に、通常の業務を止めることなく対応できること、大量の遺物洗浄などが必要になったときに、サポーターの支援を得ることにより、業務への影響を最小限に抑えられることなどが挙げられる。

今後の課題としては、これからサポーターの人数が増えたときには、その活動を支援するための施設拡充と人的な支援体制の充実が必要である。サポーターの活動の希望・要望と埋蔵文化財調査センターの必要とする補助の調整をする体制を確立する必要がある。

また、連絡会である「寧楽考古学倶楽部」に、サポーター同士のネットワークを確立してもらい、サポーター同士で活動日の調整など、自主的に活動を進めてもらうことが、サポーター制度を定着させる上で重要であると考えている。

【執筆者の職・氏名】奈良市教育委員会 埋蔵文化財調査センター技術職員 池田 富貴子